



TITLE:

大学院学生 研修員 日本学術振興会  
特別研究員 所内談話会記録(I 研究  
所の概要)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

大学院学生 研修員 日本学術振興会特別研究員 所内談話会記録(I 研究  
所の概要). 霊長類研究所年報 1988, 18: 34-35

ISSUE DATE:

1988-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163857>

RIGHT:

## 大 学 院 学 生（昭和62年度）

### 動物学専攻霊長類学分科

氏 名	学 年	指導教官	研究テーマ
三谷雅純	D 5	杉山幸丸	西アフリカにおける 樹上性霊長類の生態 学的及びコミュニケ ーション論的研究
広 谷 彰	D 5	杉山幸丸	トナカイ牧畜民の研 究
大井 徹	D 4	加納隆至	スマトラのプタオザ ルの社会生態学的研 究
吉久保真一	D 4	室伏靖子	霊長類の種の認知に 関する行動実験的研 究
早坂謙二	D 3	野沢 謙	霊長類におけるミト コンドリアDNA多 型解析
村山裕一	D 3	竹中 修	ニホンザルリンパ球 に対するモノクロー ナル抗体の作製及び 霊長類の免疫学的特 性の解析
Solomon Yirga	D 3	江原昭善	狭鼻猿類の下肢諸骨 の機能形態とロコモ ーションについて

### 霊長類学専攻

氏 名	学 年	指導教官	研究テーマ
板倉昭二	D 2	室伏靖子	類人猿の社会的概念 に関する実験的研究
五百部裕	D 2	加納隆至	ピグミーチンパンジ ーのオスの社会学的 研究
中川尚史	D 2	杉山幸丸	パタスモンキーの採 食生態学的研究
佐倉 統	D 1	杉山幸丸	チンパンジーの音声 コミュニケーション、 性行動、社会行動な どに関する行動生態 学的研究
伏見貴夫	D 1	室伏靖子	霊長類のコミュニケ ーションに関する実

### 験的研究

室山泰之	D 1	杉山幸丸	チンパンジーの社会 生態学的研究
大石高生	M 2	久保田競	運動前野と前頭前野 の相互作用の解析
小林秀司	M 2	江原昭善	ティティ属 ( Genus Callicebus ) 3種の 系統関係
高井正成	M 2	江原昭善	南米コロンビアの La Venta 地域産出の 霊長類を含む中新世 化石哺乳類について
山下晶子	M 2	大島 清	神経系の個体発生
井上美穂	M 1	竹中 修	DNA多型を用いた ニホンザルの父子判 定
小林 隆	M 1	加納隆至	都井岬の半野生馬の 社会生態学的研究
鈴木良太	M.1	竹中 修	分子進化によるテナ ガザルの系統解析
中村克樹	M 1	久保田競	情動や記憶における 扁桃核のはたらき
Soumah Aly Gaspard	M 1	杉山幸丸	高崎山におけるニホ ンザルの社会的地位 と採食戦略

### 研 修 員

氏 名	指導教官	研 修 題 目	研修期間
芝原総子	大澤秀行	ニホンザルの菜 食行動と繁殖行 動に関する研究	62.4.1 ～63.3.31
西川貴士	大島 清	霊長類の生殖生 理に関する比較 内分泌学的研究	62.5.1 ～63.4.30
瀬戸口 美恵子	加納隆至	小哺乳類の社会 生態学的研究	62.8.1 ～63.7.31
竹中晃子	竹中 修	マカカ属ヘモグ ロビン遺伝子の 構造	62.8.1 ～63.7.31

## 日本学術振興会特別研究員

氏名	指導教官	研修題目	研修期間
沢口俊之	久保田競	サル前頭前野の短期記憶関連ニューロンに対する伝達物質の役割	62.3.24 ～63.3.31

## るピグミーチンパンジーの現状」

第10回：昭和63年1月14日

岩本光雄（京大・霊長研）「ニホンザル古骨をめぐって」

第11回：昭和63年8月2日

全 国強（中国科学院・動物学研究所）「中国におけるサルの分布」

（談話会係：江原昭善・室伏瑠子・森 明雄）

## 所内談話会記録

第1回：昭和62年5月12日

景山 節（京大・霊長研）「霊長類ペプシノーゲンの構造・機能と分子進化」

第2回：昭和62年6月12日

Alison F. Richard（イェール大学・人類学部）  
「Female Social dominance and male-biased sex ratios : *Propithecus verreauxi*, a paradoxical primate of Madagascar.」

第3回：昭和62年6月17日

庄武孝義（京大・霊長研）「イエーメンのマントヒビ」

第4回：昭和62年9月17日

東 滋（京大・霊長研）「下北西北域のニホンザルの現状」

第5回：昭和62年10月3日

Richard Held（マサチューセッツ工科大学）  
「視覚の発達：その心理学と神経生理学」

第6回 昭和62年10月8日

Klaus J. Müller（ボン大学・理学部・古生物学教室）「Soft bodied fossils and their impact on the reconstruction of phylogeny.」

第7回：昭和62年11月12日

松沢哲郎（京大・霊長研）「アーミッシュの家庭と学校—現代アメリカの科学技術文明と調和した17世紀の暮らし—」

第8回：昭和62年11月20日

Charles R. Menzell（大阪大学）「Inter-group relations, home-range use, and activity patterns of titi monkeys (*Calli-  
cebus moloch*).」

第9回：昭和62年12月10日

加納隆至（京大・霊長研）「ワンバ基地におけ

公開講座「霊長類の進化」が、昭和62年8月3日(月)・8月4日(火)の両日、本研究所にて開催された。

講師および講演内容は次の通りであった。

8月3日(月)

竹中 修：分子進化の観点から  
杉山幸丸：社会生態学の観点から  
松沢哲郎：認知発達心理の観点から

8月4日(火)

森 明雄・小嶋祥三：音声コミュニケーションの観点から  
江原昭善：霊長類進化研究の意義  
相見 満：骨学実習